

2020和田ゼミナール後期 30秒映画 「雨／二人」の構成研究 研究レポート



■タイトル

『あめのち』

■シーン・全体構成のねらい

視線のカットを多めに取り入れセリフの代わりに目で語らせた。
セリフをなくすことで、静かに寄り添うような感情の機敏を表した。

■人物の設定

雨に濡れて座り込む女子高生を心配する、同じマンションに住む通りがかりの男子高生。
夏に長袖のシャツとジャージまで着ている、暗い表情の女子高生。髪で隠す頬には、痣がみえる。
時刻は放課後、濡れたままで家に帰らないのは、隠している痣はどういうことなのだろう
か。
男子高生と女子高生は特別親しくはなかったが、彼は顔見知りの異様な様子を前に見て見ぬ
振りはできなかった。

■空間の設定・構成のねらい

マンションの隅の階段。何かあった時、女子高生が一人になれたこの逃げ場所が、二人きりの場所になる。

■導線のねらい

誰かの目線で階段を上がり、シーンが変わると同時に目線が男子高校生だったことと、階段に座る女子高校生を見つける。また影だけで男子高校生の動きを表現することで次のシーンに興味を引かせた。

■サウンド(台詞)演出のねらい

雨の強弱によって登場人物の感情の変化を表現している。

■編集構成のねらい

キャラクター視線のカットを編集で揺らすことによって現実味を帯びて見えるように工夫する。

■その他の実践ポイント

背景の色味を少なくし、統一することで、登場人物の色が目立つようにした。
3D上で背景を作り、どのような構造になっているかを確認した。

■レポート

「雨／二人」という題材をどう表現するか、案を出し合い、話し合いで突き詰めた。

最初は大まかな案という粗削りだったものが話し合いの中で明確な形になり、伝わりやすいようブラッシュアップされて、表現したかったものを40秒弱の時間で表すことができた。

セリフがない中でどう心情を表すかが最も大きなポイントで且つ最も難しい点だったが、メンバーそれぞれの視点からこの表現はどういう風に見えるか意見を交わし、気持ちの表し方についてより適切な形にできたと思う。特に、この作品で重要なシーンである二人が並んで階段に座るカットでは、横に座るか上下にずれて座るかの話し合いが非常に面白かった。

一人では考えつかなかった表現や技法を示してくれたことで、単調にならず、作品に奥行きが生まれたと思う。グループとしてこの作品を作る中で、多角的に見ることの重要さが分かった。